

碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認 可
神奈川 碩 心 会 発 行

60年4月現在 会員数
返子地区 165名
葉山地区 300名
大船地区 63名
(合計) (528名)

60年4月号 (153号)
発行 者 萃
根 岸 岳 集
編 編 集 岳
中 村 愛 岳

私 と 詩 吟

返子A支部 松井 正風

私が詩吟を始めた動機は、ほかの方達とちよつと違いかも知れませんが、大好きな詩吟との出会いは、四十年以上も前のことになりました。戦時中よく家で聞いた吟声、

「霜は軍営に満ちて秋気清し……」

上杉謙信の「九月十三夜」は私が子供の頃近所の方達が父と一緒に声をはりあげており、別に教えてもらつた訳ではありませんが、いつのまにか吟ずることが出来るようになっていました。今でもこの詩は私の大好きな詩吟の一つです。ですから「霜は軍営に満ちて」と聞くと涙が出るほど懐しく思うことがあります。

昭和五十一年の半ば頃だつたと思います。今迄あまり趣味を持たなかつた母親が詩吟を始めの事になりました。父も、家族もみんな大変よろこびました。母は父から貰つた第一教典に名前まで書き、その気になつていたようです。父の関係する詩吟の会の先生方も、とても喜んで下さいました。が、まもなく体調をくずし、一度も人様の前で吟ずることもなく、五十二年十月に他界してしまいました。

葬儀の日、寂しそうな父親の姿を見、又葬儀に参列して下さいました先生方の弔歌を聞き、母に代つて父の良き理解者になろうと思つたのが、詩吟を始めのきっかけになりました。父から母の持つていた吟道教典を貰い大切に持つております。そのせいではないかもしれませんが、それからは詩吟のとりことなつたようです。

碩心会の皆様の仲間に入れていただき、早くも七年半が過ぎました。いつまで続けられるか一寸心配でしたが、指導の先生、先輩、吟友等、とてもよい環境に恵まれました。詩を吟ずる事が楽しく、今迄一日も稽古を休まず過すことができました。皆様が大変感謝いたしております。中伝になつた頃、将来自分が指導者になつた時は、この雰囲気の良い環境を作り、その中でみんなと一緒に勉強してゆきたいと考えてまいりました。幸い、とても良い仲間にも恵まれました。現在では十四人の仲間が出来ました。私共の教室の自慢は四組の仲の良い御夫婦が一緒に勉強をされていることです。とてもよい雰囲気です。私自身まだまだ未熟者にて指導力に欠けますが、先生、先輩の教えを守り、毎回の稽古が楽しく、次回の稽古日が待ち遠しくなるような環境、そして一人一人が持つよいところを引き出し、岳風流の

地区	支部名	会員数	指導者名
逗子地区 165名	逗子A	64	根岸・一柳・金指・松井(正)
	逗子B	8	三井
	桜山A	14	三井
	桜山B	10	広瀬
	沼間	7	三井・松野・清水
	山の根	5	三井
	詠澄	17	千葉(劍)・千葉(香)
	銀葉	16	村田
	真葉	14	広瀬
	葉山地区 300名	堀内A	17
堀内B		8	加藤(圭)
堀内C		5	小峰
堀内D		24	中村(幸)・中村(愛)
堀内E		9	白井(寿)・白井(麗)
堀内F		15	矢嶋
堀内G		8	佐藤
横警		11	小形
一色A		30	鈴木(孝)・守谷
一色B		21	加藤(相)
星山		15	黒崎
上原		25	伊藤
唐木		12	寺脇
山下		13	行谷
平山		16	沼田(光)・沼田(義)
吟甫		12	沼田(光)・渡辺
長柄		11	竹石
諏訪		15	諏訪
上山		7	秋元
滝の坂		15	上村・佐久間
早風	11	杉山	
大船 63名	大船A	14	根岸・立沢・岩崎
	大船B	23	三井・森田・田上
	戸塚	7	鈴木(萃)
	松和	19	下条・木村
合計	(28支部)	(528)	(44名)

傾心会支部別会員数一覧表 現60・4・1 在1

◎ 常任理事会開催さる

240 松井正風
237 角田梅風
231 中村悌風
209 西山隆風
238 後藤道風
232 黒沢華風
225 塚越正風
236 杉本恵風
228 長田照風
239 秋吉笙風

奥伝合格 (四月一日付)

おめでとうございます

きまわりを守った、個性ある吟者を育てたい
と思っております。今後共十四人の仲間共
々よろしく御指導の程お願い申し上げます。

とき・3月30日(土)6時30分より
ところ・逗子奉仕店会事務所
(議題)

1. 横須賀第二地区大会の出吟について
2. 山形吟行会の企画、経過報告について
3. 温習会の開催について
4. 59年度分決算(仮)報告について
5. 60年度予算(案)について
6. 60年度理事会の開催に係る日程、資料等について
7. 会則第8条の規定に基づく部、及び地区の業務分掌について
8. その他

山形吟行会実施について

とき・60年6月8日(土)～9日(日)

宿泊地・山形県天童温泉

費用・三万四千円

使用乗物・全行程デラックス観光バス

申込切・4月30日迄に会費を添えて千葉

香岳又は広瀬翔風迄

観 光・初夏のエコライン・蔵王山頂

ポイント お釜・寒河江魂碑・慈恩寺・

斎藤茂吉記念館他

◇詳細は後日お知らせいたします。

◇多少人数のゆとりがありますので御希望

の方はぜひどうぞ(企画部 千葉香岳)

審査会風景

三月十日、逗子図書館ホールにて傾心会
春期審査会が行われました。さきにも御紹
介いたしました。堀内支部西岡江風さん
一族のうち、一級西岡ようこ(少)、四段若林
翠泉、中伝若林晴山、五段西岡大山、六段
西岡清山さんの五名がめでたく合格されま
した。

審査当日私は後部座席で受審風景をみて
おりましたが、おばあちゃん、旦那様、バ
バ、ママ達が応援にきていて、審査を終えた御

本人が座席に戻ると、一族の皆さんが顔よせ合って、心配したり、又ホッとした様子に、家族愛といえますか、なんともほろえましく、心暖まる思いがしました。(愛岳)

松和支部 宇都宮 徳風作

昭和五十九年十二月二十三日

贈三井雲岳先生

遠来訓導十年煩 垂範詠吟常入魂
不慮茲為難任運 無忘懇篤教鞭恩

遠来の訓導十年の煩
垂範の詠吟常に入魂
慮らずも茲に離任の運びとなるも
忘るること無し懇篤なる教鞭の恩を

昭和六十年元旦

新春偶吟

湘南海岸彩雲晨 欲拝初陽人満浜
忽上紅輪歓喜響 祈年拍手寿佳春

湘南海岸彩雲の晨
初陽を拜せんと欲して人浜に満つ
忽ち上る紅輪歓喜の響
祈年の拍手佳春を寿ぐ

滋賀の都

守谷 崇岳

昔の都あともなく たえて淋しき滋賀の里
におう桜の色ばかり 変らぬ春の来る毎に

(小学唱歌琵琶湖)

我は水の子さすらいの……

滋賀の都よいざさらば

(琵琶湖周遊歌)

どの歌にもどこかもの悲しく、想いを遠
いにしえに誘う余韻が感じられる。歌や
詩に滋賀の都がよくりたわわれているが、私
はこの都の存在したことを学んだことがな
く、只漠然とした郷愁をいだいていた。そ
こで、どうして此の地に、しばしの都が置
かれたのか？を知るべく、そのかみの事を
尋ねて見た。

時は遠い飛鳥の時代(六六三年)、我が
朝廷は、当時我が国と友好関係にあった朝
鮮半島の新羅が、唐及びその周辺の国々よ
り攻撃されて苦しんでいたため、救援のた
め多数の水軍(一説に四百余艘)を送ったの
であるが、白村江(ハクスキノエ)の海戦に
於て、唐軍のために全滅してしまった。こ
れにおどろいた朝廷は、彼の反撃を恐れて、
直ちに九州沿岸の防備を固め、多数の防人

を配し置き、(六六七年)都を大和より近江
大津へと移したのである。

天智天皇は間もなく此の地に崩御され、
皇太子大友皇子(大津京朝廷弘文天皇)と大
海人皇子(皇弟・後に天武天皇)の皇位争い
が起り、大友皇子は敗れて殺され、皇弟が
皇位につく、すなわち壬申の乱である。

さざ波や 滋賀の都は荒れにしを
都ながらの山さくらかな(読人不知)

天武天皇は(六七三年)飛鳥の浄御原宮
に於て即位され、近江の都は我が国二千有
余年の歴史の中に於ては、春の淡雪の如き、
つかの間の都であったのである。

いつの時代にもよくある、権力の為の骨
肉の争いに、悲しく若くして散った大友皇
子を偲べば、そぞろにあわれをささうので
ある。

淡海の海、夕浪千鳥汝がなけば

心も靡ぬにいにしえおもほゆ

(柿本人麿)

やがて都は藤原京へと、そして奈良の平
城京へと移り変わりゆき、唐風文化より、天
平文化への花が開いていったのである。

◎ 堀内支部役員交替

支部長上村象風・副支部長一之瀬汀風
(本部理事兼任・板橋雅風理事留任)

練吟メモ

朝辞白帝彩雲間
千里江陵一日還
兩岸猿声啼不住
輕舟已過萬重山 (韻)

(説明)

1. 右は平仄から言うと、七言絶句の正格である。第一句の二字目が平字。の場合で、これを平起式又は平起りという。
2. 第一句の二字目が仄字の場合、これを七言絶句の偏格といい、仄起式又は仄起りという。因みに、五言絶句の正格は仄起式、偏格は平起式で、七言絶句の反対である。
3. 七言絶句の各句の一字目、三字目、五字目は、平仄は。何れでもよい。
4. 各句の二字目と四字目は、平仄を必ず違える。(。に。か。に。で、これを二四不同という)
5. 各句とも、二字目と六字目は、必ず同じ平仄にする。(。と。か。と。で、これを二六対という)
6. 右の3、4、5を原則とするほか、七言、五言絶句とも次の禁止事項がある。
ア、孤平(各句どの位置でも。とな

ること)は、これを忌む。

イ、孤仄(アの反対で。を忌む。

ウ、平三連(各句下の三字が。とな

ること)は、これを忌む。

エ、仄三連(各句下の三字が。とな

ること)は、これを忌む。

○漢詩(ここでは唐詩を指す)は、厳しい

規制のもとに作られている、ということが

解っていただければ結構である。よく話の

つじつまが合わないことを、ひょうそくが

合わないというが、ここから出た言葉であ

る。今回は七言絶句を例にとり、その一端

を紹介するにとどめた。これ以上省略でき

ないぎりぎりにとどめたので、そのつもり

で目を通されたい。終りに、漢字の平仄は、

漢和大典の各漢字(国字を除く)の下に表

示してあるので、作詩の際は、一字一字辞

典で平仄を確認しながら進めて下さい。

(入会)

- 682 鈴木桂子 葉山町堀内一六七五 (返子A) (電)〇四六八―七五―四七三五
- 683 小林秀子 横須賀市津久井二七五〇 (返子A) (電)〇四六八―四八―五九〇四
- 684 横山良子 返子市池子二二七―四 (返子A) (電)〇四六八―七二―〇一三八
- 685 三木フミ子 葉山町一色一三四五―八 (一色A) (電)〇四六八―七五―八七七〇

686 阿部栄子 葉山町一色一―三四

(一色A) (電)〇四六八―七五―四三三四

687 益子シン 横須賀市秋谷二―七―一五

(諏訪) (電)〇四六八―五六―五二七四

688 望月俊昭 返子市沼間二―十一―二三

(堀内・D) (電)〇四六八―七三―三四一五

689 小暮洋子 所属・住・(電)右に同じ

多々良真智子 横須賀市長坂三―十一―四九

(堀内・D) (電)〇四六八―五六―九三七四

691 木村のり子 横須賀市長坂四―八―八

(堀内・D) (電)〇四六八―五六―二六七九

692 千葉佳男 横須賀市長坂二―十一―一八

(堀内・D) (電)〇四六八―五六―九一〇一

693 鈴木吉枝 葉山町堀内九二二

(堀内・G) (電)〇四六八―七五―〇二六八

694 青野美代 返子市池子三―十三―三一

(桜山B) (電)〇四六八―七二―〇〇九七

695 鈴木 誠 葉山町下山口一九三六

(下山口) (電)〇四六八―七六―一〇一五

696 近藤保正 葉山町下山口一八六

(星山) (電)〇四六八―七八―八七〇六

697 高橋 正 葉山町木古庭四〇八

(星山) (電)〇四六八―七八―七六九三

(退会)

305 伊藤翠泉(滝ノ坂)

573 岡田紀泉(真澄)

346 深川東山(唐木山)

599 加藤春吉(平松)

627 井出幸子(星山)

629 鈴木チツ子(下山口)

674 石塚保子(堀内D)